リレーエッセイ

分析との出会いで得た楽しみ

皆さま，初めまして。ポーラ化成工業株式会社の小山十糸子と申します。株式会社バイオクロマトの吉沢賢一さんからバトンを受け取りました。

「ダイヤモンドは欲しがりませんから，この化合物の結晶が出来ますように」と真剣に祈る学生時代を過ごした私ですが，社会人となってから縁あって分析と出会い，厳しくも楽しいこの世界を吉沢さんに教えられ今日に至ります。この度，由緒ある「ぶんせき」のリレーエッセイを書きませんかとお声がけいただき，恐縮しつつもお受けした次第です。

皆さまにとって，分析の楽しさはどのようなところでしょうか。私は，分析技術というツールを得たことで，科学的な事実を探す楽しみ，社内の方たちと協働して課題を解決する楽しみ，社外の方たちと交流する楽しみを感じています。

現在の会社に入り分析を始めたころ，装置を動かしてデータが取れることが，とにかく楽しくて仕方がありませんでした。例えば HPLC で，目的成分に不明成分が重なっていたら，サンプルで何が起きているのか，なぜ測れないのかをとことん考えます。一筋縄ではいかないときほど様々な可能性を考え，試し，分析法を確立する充実感を味わえます。

その繰り返しの中で，選んだ分析法が「正解」であったか？ということに思い悩んだ時期があります。当時，私は開発や生産の現場で発生する様々な課題に対し，分析担当として向き合う毎日でした。経験も技術もある先輩方のご指導のもと，担当する課題には責任をもって取り組みたいと考え試行錯誤すればするほど，先輩方であればこの課題をどのように分析されるのか，ということが気になりました。データが出てからも，より早くより美しい方法であっただろうか，と考え始めるとエンドレスです。

そんなある日，誘導体化に関するヒントを探して中村洋先生が監訳された「分離分析のための誘導体化ハンドブック」（K. Blau，J. Halket 編，1996 年，丸善）をめくっていたとき，次の文章に出会いました。長くなりますが，引用します。

「理想的な，または最善の，あるいは完全な解決などはあり得ないということを強調しておきたい。誘導体化またはクロマトグラフィー上の問題に対しては，通例一つ以上の解答があるのである。分析者が違えば異なったアプローチをとるし，装置の利用には制限があり得るし，どの種類のクロマトグラフィーを最も好むかに関しても明らかに個人のえり好みがあろう。」

ああそうか，解答は一つではないし，個人のえり好みがあっても良いのか！　私は，分析法を決めるということ全般に通じると（都合よく）解釈し，とても救われた気持ちになったことを覚えています。この出会いをきっかけに，自信を持って試行錯誤し，事実を探すことを楽しめるようになりました。

課題分析には提示される正解がありません。目的に沿って分析法を確立し，データを取りながら答えを探していく作業です。分析法は一つではなく，複数の手法を組み合わせて結果に矛盾がないことを確認します。更に，例えば開発途上での課題であれば，開発担当者が原因究明のために様々な検討をしていますし，生産での課題であれば，課題が発生する前後の状況も情報として入ってきます。それらも含め総合的に矛盾がないのか，パズルのピースを埋めるように，結論に近付いていきます。この過程もとても楽しく，最後のピースがはまると（小さく）ガッツポーズすることもあるほどですが，得られた結論を伝え，相手が納得してくれることにも，また格別の楽しさがあります。正しい結果と明快なフィードバックがあってこそ，課題は解決に向けて動き出しますから，企業内の分析部門で仕事をすることの醍醐味かもしれません。とはいえ，起こらない方が良い課題も多いので，その分析を楽しいと感じているのは不謹慎だなと毎回思うのですが...「ぶんせき」誌ですのでご容赦ください。

すてきなご当地マンホールを見つけることは（分析以外の）楽しみの一つ。一人立ち止まり写真を撮ります。これは長野県白馬村のカラーペイントされた美しいマンホールです。

そして最近は，社外の方々との交流をとても楽しく感じています。業界が違っても技術的な共通項は多く，たいへん勉強になると同時に多くの刺激をいただいています。分析そのものにとどまらず，関連する技術や学術分野にも興味を持って取り組んでおられる方が多いことも，交流の楽しみを倍増してくれる要素かもしれません。

最後までお付き合いくださりありがとうございました。機会がありましたら，ぜひ，皆さまにとっての分析の楽しさをお聞かせください！

さて，バトンは日産化学株式会社の松原功達さんにお渡しします。松原さんには産業界シンポジウムをきっかけにして様々なところでお世話になり，勉強させていただいております。ご多用のところと思いながらもエッセイの執筆をお願いしたところ，快くお引き受けくださいました。ありがとうございました。松原さんのエッセイを楽しみにしております。

〔ポーラ化成工業株式会社　小山十糸子〕